



藤谷 謹至
議員
(拓政会)

問 スキー場の運営管理および整備について
**魅力あるスキー場のあり方を検討し
施設・環境整備に取り組んでいる**

問 本町では明野ヶ丘・白銀台と2カ所のスキー場を運営管理しており、いずれのスキー場も初心者、ファミリー、学校教育と幅広い層に利用されている。

また、今シーズン白銀台には新しい圧雪車が導入されることから、ゲレンデ整備の迅速化を図りスキーヤーの利用者増も期待したい。

さらに、ナウマン全道そり大会が30回を迎えるにあたり、観光プロジェクト会議も発足した。しかし、近年スキー場の運送延べ人数は、平成23年度は明野ヶ丘7万5千人、白銀台14万1千人、と伸び悩んでいる。そこで以下の点について伺う。

- ①スキー場を活用した冬のアウトドア型観光の推進について。
- ②初心者、ファミリー層に利用しやすいスキー場の環境整備について。
- ③オフシーズンのスキー場利用、夏場の環境整備について。

町長 ①本町には二つのスキー場があり、多くの町民の方々を始め、近隣市町村からも家族連れの方などに親しみを持って利用してもらっている。

今年度、実行委員会により実施されるナウマン全道そり大会30周年記念事業の中では、冬のアウトドアへのきっかけづくりとして「ボブスレー教室」や「ラフティンク」「スレッドドリラー」などの実施を計画していると聞いています。

このほか、アウトドア型観光資源として、夏場の「ノルディックウォーキング」、冬場の「スノーシュー」の導入に向けて、アルコ236を中心に検討しているとのことで、町としても、地域との連携を図り、支援に努めていきたい。

②明野ヶ丘スキー場と白銀台スキー場は、そのゲレンデの延長、形状などから、主にファミリーゲレンデとして、初心者やファミリー層になれ親しんでもらえるス

キー場と認識している。

このように小学生を中心に初心者の利用が多いことから、町内の小中学生と学校の授業では、リフト料金を無料とし、他のスキー場と比較しても利用者の負担も少なく、大変利用しやすいスキー場と好評を得ている。加えて、白銀台スキー場では、ロッジが混雑しているときは、休憩場所として宿泊ロッジを無料で開放している。

引き続き、初心者を含めた町内外のスキー客がより利用しやすい方法について検討していきたい。

③宿泊ロッジは、体験型観光の受け皿として利用が伸びる要素があるので、スキー場焼き肉コーナーの利用と合わせて、施設備品の整備や夏場の利用も含めたさらなる広報活動に努めたい。

また、今年度はスキー場一面を花で満たし、野生の草花を見ながらの散策路として活用できないかと、宿根草の種をまく試みを行っ

たが、まいた時期が高温続きでよい結果が得られなかった。自然に咲く美しい野草が豊富なため、来年度以降も散策路も含めて、このような可能性について検討していきたい。

再質問 高規格道路開通を見据えたスキー場への誘客について。

答 冬の観光集客の考え方を、忠類地域住民会議で高規格道路の開通についてを協議し、町長に考え方を要望した。

道の駅を中心に、スキー場・ナウマン象記念館・アルコ236とタイアップし、現状にも増した施策を検討していきたい。



白銀台スキー場とパオ君